

令和6年8月10日

八頭町議会
議長 尾島 勲 様

総務教育常任委員会
委員長 川西 美恵子
(公印省略)

総務教育常任委員会視察調査研修報告書

八頭町議会総務教育常任委員会は、令和6年7月24日に調査研修を終了したので、八頭町議会会議規則第77条の規定により、別紙のとおりその結果を報告する。

視 察 報 告 書

完結印	議長			局長	関係職員
出張先		出張目的		出張月日	日数
北海道北広島市 ニセコ町 札幌市		常任委員会県外視察		令和6年7月 22日～24日	3
報告月日	所属		職名	氏名	
令和6年8月10日	総務教育常任委員会		委員長 副委員長 委員 委員 委員 委員	川西 美恵子 灘口 茂郎 森 亜紀子 山根 張太郎 緒方 陽紀 尾島 勲	

報告要旨

見だしの研修に参加しましたので、その概要を報告致します。

〔視察の目的〕

○まちづくりについてのボールパーク構想、防災の拠点となる新庁舎・SDGsの取組み、並びに芸術文化を通じた交流の場について調査・研修し委員会活動に活かすとともに、今後の本町のまちづくりの参考とすることを目的とする。

北広島市 北海道ボールパークFビレッジ 北広島市のまちづくり

〔視察事項〕

① 経過の概要

32haの総合公園予定地に、官民連携による総合運動公園の検討調査を開始。
プロの試合も可能な野球場についてファイターズと意見交換。
6万人に満たない市が球場を持つことが可能か、あらゆる可能性をヒヤリング。
日本ハムとファイターズより、株主総会を経て新球場構想の調査検討開始を発表。
新球場（ボールパーク）建設が正式に決定。

② FビレッジにおけるSDGs

※「子ども」に注力。

球場内に子どもたちが安全に遊べるエリアを設置。育成プログラムの整備。
地域社会の課題を学ぶ場や職業体験の場を提供。食育活動の実践 etc

※持続可能なまちづくり

あらゆる世代が交流する空間やコミュニティ育成の場の整備。
有事の際の防災拠点、地域の広域避難場所としての機能の保有 etc

※パートナーシップ

「オール北海道ボールパーク推進協議会」のテーマ別分科会による課題解決推進。
産官学の連携・協議と汎用型価値創出を目指した事業の推進。

- ③ 防災機能の整備
避難場所に関すること、防災備蓄倉庫としての機能に関する覚書を締結。
(1万人が3日間滞在可能)
北海道の備蓄品を揃え、道内市町村災害時の備蓄拠点。
周辺道路を緊急搬送道路に指定。
災害に対する強化を図るため、及びエリア内で周辺道路無電柱化を実施。

- ④ 北広島市の取り組み
交通アクセスの整備
新駅の整備
広告物に関する条例により、市が主体的に広告景観を整備・誘導する
広域連携体制の確立(39団体により構成)

[所感]

○まちづくりを行政だけで行うには限界があり、北広島市は民間との連携がしっかりあり、運営にあたる人や資金の確保等、体制が築かれており、素晴らしいとの組だと感じた。

○FビレッジにおけるSDGsにおいて、特に、各行政機関、地域自治体、企業、学識経験者が一体となった官民連携の取組は興味深いものであった。

○バリアフリーな空間で、車いすの方も多くおられ、住みやすい街であると感じた。

○北広島市と八頭町では財政規模などが違うが、民間を巻き込んだまちづくりは、本町でも出来る可能性があると感じた。

○まちづくりを行う際には、現在の社会情勢を基に考えを巡らせるのではなく、未来に向けた社会構造など、想像力を十二分に発揮しなければならないと感じた。

○Fビレッジの分譲マンションの入居者が首都圏からの移住者であることには驚くとともに、投資目的であるように感じた。

○職員の方々のまちづくりに対する熱意に圧倒された。タクシーの運転手さんなど出会った市民の方々が「町のいいところ」をPRされる積極的な住民性は八頭町でも広げていければと思った。

ニセコ町 ニセコ町まちづくり基本条例・新庁舎・SDGsについて

[視察事項]

- ① 住むことが誇りに思えるまちづくりを基本構想に、ニセコ町まちづくり条例制定。「情報共有」と「住民参加」が2大原則。

情報共有では透明性の確保と説明責任の明確化。

住民参加の取組では、自らが責任をもって行動するまちづくりを基本概念に、それらの取組を支えるために、町職員「まちづくり専門スタッフ」を育成。

- ・職員研修の充実。(政策法務能力の向上、人的ネットワークの充実)
- ・自ら考え行動できる職員＝自立して町民とともに歩む職員・組織づくり
- ・さまざまな連携や、横断的な職務遂行、職員プロジェクトチーム。
- ・ファイリングシステムの活用など、効率的な情報共有・業務運営。

- ② 予算説明書(もっと知りたいことしの仕事P194)を全戸配布。
町の予算は本来、町民のためのものであり、行政には毎年度の予算をわかりやす

く説明する責任がある。（町民アンケートでは回答者の61%の方が「役に立っている」と評価）

③ 子どもにやさしいまちづくりの推進。

まちづくり基本条例に「未成年の町民のまちづくりに参加する権利」を策定。

小学生・中学生まちづくり委員会の設立。（自分たちの町を知るとともに、ふるさとの課題を見つけ、提言してもらうことを目的とする）

子ども議会の開催。

（子どもたちが地域社会の構成員としてまちづくりに参加し、社会体験を積むことによって、子ども自身の成長や豊かな地域社会を創造することを主眼）

④ SDGs の取組み

1) 経済 地域経済の循環と「稼ぐ力」の強化

観光目的税の導入検討・実施 etc（雇用創出・人口微増傾向の維持など）

・社会資本整備総合交付金（国交省）の支援を想定。

2) 社会 安心して住み続けられる地域コミュニティの形成

民間資金活用集合住宅建設等促進条例や防災センター建設による防災機能強化、情報共有と住民参加のまちづくりの継続（生活の質の向上・災害に強いまちづくり・移住者増加）

・地方創生推進交付金（内閣府）の支援を想定

3) 環境 省エネ、再エネ導入の促進と資源循環

環境配慮型象徴的新庁舎の建設（自然環境を求め、世界中からの観光客増加。）

・エネルギー構造高度化・転換理解促進事業（経産省）の支援を想定。

⑤ まちの憲法～ニセコ町づくり基本条例の制定

・条例のイメージ化 → 自治基本条例の策定が必要 → イメージの具体化

・条例の骨子 ○町民の権利保護 ○町民自身の責務 ○議会の役割と責務

○行政の役割と責務

（住民自治のための基本条例→理念・権利・制度を将来に向けて発展させる努力）

⑥ 新庁舎について

・東日本大震災を契機に築50年が経過し老朽化した庁舎建設の議論を開始。

・防災拠点整備と合わせ、来庁者の利便性の向上・職場環境の改善・周辺敷地の一体的な利用など、多様な庁舎機能を十分な住民合意から検討し、町の未来を支える「まちづくりの拠点」創造の方向性を示す検討を実施。

・2016年の熊本地震後、有利な財源が新設され、庁舎と防災センターを一体として整備する方針となった。

・6つの基本コンセプト ○防災の拠点 ○環境に配慮した施設 ○子どもの視点に立った施設 ○町民に開かれた拠点 ○自然との調和を大切に施設

○ニセコらしい整備手法で作る

〔所 感〕

○開放された明るい庁舎、議長室や町長室は透明なガラス張りで、町民に開かれた庁舎だった。議場は議会がないときは町民に開放されるなど、様々な用途に使用できるよう工夫されていた。

○建物だけではなく、備品について配慮されておられ、椅子や机はどれも使いやすく、

庁舎は人に優しい配慮がある空間。そして居心地の良さを感じた。

○今後、八頭町でも新庁舎の建設が具体的に検討されるが、町の主役は誰なのかを明確にして、庁舎建設についての参考となる点が多かった。

○新庁舎は、環境に配慮した建物であり、住民が主役の役場づくりがあちこちに散りばめられた、また、職員にも働く環境が整備されたかなり高度な建築物に仕上がっていると感じられた。我が町の役場新庁舎を建築する際の首長に対して、議会としての意見助言を行う一助となりうる建築物であった。

○高気密・高断熱住宅で、エネルギーコストを地元還元することや、ニセコミライの開発、また、環境配慮型の新庁舎は、まさに、本町も選定されている「SDGs未来都市」にふさわしいものであり、これからの持続可能なまちづくりに活かしたいと感じた。

○SDGsについては、2018年10月に、当時のニセコ町企画環境課斎藤係長に滋賀県大津市のJIAMでニセコ町のSDGsの取り組みについて説明を受けた。その時と今回の山本副町長の説明を比較しながら視察調査を行った。結論から言うと、その方向性に齟齬はなく、町職員全体で、SDGsに取り組んでいることが確認できた。

○11月から宿泊税がスタートするというこで、観光資源の豊富なニセコならではの話を聞くことができた。

札幌 札幌市市民交流プラザ

○ 施設を見学のみ

〔所感〕

○最近の施設に多く見られる、木材を多用した造りであり、また、利用者の利用環境を第一番に取り入れた構造物であると感じた。

○鉄筋コンクリートに比べ空気感が柔らかく、利用者の精神衛生を最大限配慮したと感じ取ることが出来た。

○オフィシャルスポンサーは上場企業が名を連ねており、民間の支援が大きいと感じた。

○ポスターやリーフレット等の展示や設置もインテリアのようで絵画を見ているようだった。

○八頭町の芸術文化の拠点としての「あーとふる八頭」で、視察した市民交流プラザの展示・椅子のレイアウトなど、人が過ごす空間として参考にし、提案したいと思った。

○今後の町内における公共物を造る際の参考事例として大いに役立つものであった。